

段ボール工場のスマート化 原紙移動簡易補助器『モビロール』

有功社シフト貿易㈱チーフディレクター 谷口有三氏

谷口氏は段ボール産業の現場で効率化、安全性がさらに推進されていると述べ、「今回ご紹介させていただくレノバ社製『モビロール』は大型、重量のあるロールの移動を容易にするための小型電動工具」と説明。

「レノバ社はイタリアの中小企業。イタリアは国営企業以外



発表する谷口氏

の民間企業は中小企業が多く各社とも独自のブランド開発能力に優れている。ヨーロッパは安全基準が厳しくその各種認証を得た安全性には定評がある。『モビロール』を貼合ラインに導入することで、段ボール原紙のロールスタンドへの作業がスムーズに、安全に移動するため「最適」と述べた。

その主な特長を次のように挙げた。「コンパクトでケーブル、ホースが無いのでスムーズに動かせる。高い耐久性でバッテリーが長寿命(約500回充電可能)。さらに高速充電(最長でも4時間)でパワフル。1回の充電で60-120ロールを搬送可能(1-5シフト相当)、そして高重量に対応でメンテナンスフリー・リチウムバッテリー1年保証(本体は2年保証)」と説明した。

ストレートとS字、2種類のハンドル形状が用意されている。イタリア・ミラノのレノバ

社製で「今回、日本初お目見えの製品。貼合ラインでの原紙の転載、オペレーターを重労働から開放でき貼合ラインへのフォークリフト進入を減らし安全度の向上が図れる」。

モビロール導入で期待できる効果としては「安全基準に世界で最も厳しいと言われるCE認証取得の『モビロール』の活用により、フォークリフトの構内運転距離が縮減されることで、人身事故のリスクを大幅低減」。小型電動工具のため、フォークリフトのように排気ガスや走行時に巻き上げられるチリ、ホコリを発生させないため構内の空気を汚さない。省力化・作業効率向上の面でも1度に3-4個のロールを安全に移動させる事が可能であるため、少人数でセットアップが速くなる。さらに「高汎用性の面でも最大30トンのロール状の物体であれば、ロール紙に限らず、自動車のタイヤ等も押して動かせ

るなど工場における他目的での使用や、緊急時における早急な移動にも役にたつ」と特長を説明した。

当日は「高圧貫流ボイラ+ダブドレン回収ユニットの紹介」三浦工業㈱上藤丈浩氏、「製造業におけるセキュリティ強化と導入効果」パナソニック㈱小山守郎氏の研究発表も行われた。

休憩をはさみ特別講演として「事後の100策より、事前の1策」労働災害の根本原因と対策」をテーマに、神戸学院大学の現代社会学部社会防災学科教授中田敬司氏が講演。

プログラムの終わりに日本紙加工産業労働組合協議会小林伸吉議長が「安全を諦めないで取り組むことが、事故撲滅を実現する」趣旨のあいさつを述べ、東部段ボール安全衛生委員会の林田稔委員長の閉会のあいさつを櫻庭弘章副委員長が代読して終了した。